

平成28年06月05日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者 ※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照

駅東まちづくり21 理事

(ふりがな) さいとう まさみつ

氏名 齋藤 正光

(郵便番号) 〒321-0945

住 所 栃木県宇都宮市宿業1丁目20-8 株式会社いがらし不動産内

理事長 五十嵐 薫

職 業 建築設備業

年 令 62歳

3 事案に対する賛否

積極的に賛成いたします。

4 利害関係を説明する事項 ※利害関係人のみ記入 (注意事項③参照)

なし

5 自宅、勤務先等の連絡先電話番号

(郵便番号) 〒321-0942

住 所 栃木県宇都宮市峰3丁目31-15

連絡先 自宅・勤務先共 028-908-6543 株式会社 福屋 代表 齋藤正光

携帯



提言要旨

駅東の公共交通対策は急務である

都市計画道路、特に、下平出より清原工業団地のルート計画に賛同する。国内有数の内陸部大工業団地である宇都宮市清原工業団地、その先の芳賀工業団地、大工場の本田技研等への通勤、物流による渋滞解消、鬼怒川河川の障害打破の為に新交通システム(大量輸送手段しかないだろう)の構築を求め、具体的には、宇都宮市交通対策第一期として JR 宇都宮東口から清原、芳賀両工業団地に至るまでの間に通称 LRT の導入を強く求めます。

私は、宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社からの軌道運送高度化実施計画の認定申請事案に関して、積極的に賛成する立場で意見を述べさせていただきます。

まず、地勢的な環境から宇都宮を眺めてみる為に半径 100km の円を描くと、東は大きく太平洋へと飛び出し、囲まれた円の南半分には、なんと神奈川県を除く関東一都五県の主要都市がほとんど含まれます。残った北半分には、雄大な山々が周りを囲み、その内側に自然と緑豊かなたくさんの観光名所と穀倉地帯が広がります。

中心に位置する宇都宮は、南北に延びる東北自動車道と東北新幹線、東西に走る北関東自動車道とが互いに交差する内陸を代表する物流の一大拠点としても、世界に誇る日本企業の集積基地として、また、自然や地理に恵まれたさらなる可能性を秘めた商業住宅都市としても将来性が大いに期待出来る地域です。

しかし、この恵まれた地勢的条件を阻害しかねないのが公共交通の脆弱性です。

宇都宮は、下野一の宮である二荒山神社門前を中心に発展し、その東端を南北に流れる田川で隔していましたが、維新後その田川東岸に鉄道が敷かれ駅ができると、時に応じて橋を渡し、東に広がり始めた新市街と旧市街との通行をなんとか確保してきました。

しかし、戦後、栃木県の大河川であり、やはり南北に流れる鬼怒川河川敷き水田地帯の西端に、平出工業団地が誘設され、そこで働く従業員の住宅等が増え始めると共に自動車の普及も重なり、旧来の幹線道路から渋滞が始まりました。その後さらに、鬼怒川東岸に大規模な清原工業団地が造成され誘致された工場が稼働し始めると、田川、鬼怒川に掛けられた橋梁部分で絞られた車の流れは、通勤時間を中心に市内の道路交通網全体への大渋滞を招く事になりました。

唯一、高度成長期に開発から取り残されたのが JR 宇都宮駅の東側一帯でしたが、40 年前に地域の再開発と共に、清原工業団地への企業誘致時に約束した駅東口と清原工業団地を結ぶ、交通網整備への県道鬼怒通り、通称新柳田街道の新設と同時に柳田大橋の工事も始まり、さらに当時の知事や市長からは、新しい公共交通機関構想としてモノレールから始まり、あらたな輸送機関が提案され検討された中、浮上したのが LRT を軸とした新公共交通システムでした。

それからすでに 30 年。

「時間の掛け過ぎではないだろうか」と LRT 構想に賛成する立場としては感じています。おおまかな青写真が発表されてからでも 20 年以上、市民への説明会が何度も繰り返され、反対の意見が声高に叫ばれる中、数度の選挙を経て LRT 推進の市長が繰り返し選出されて、ようやく発車に漕ぎ着けたと思うのに、今でも反対意見の方々は LRT 構想を破棄しようと、あらゆる機会を見つけては邪魔を続ける。いい加減に行政もはっきりと結論を公表して、対案もほとんど出さずに反対する為だけの抗議運動をやめさせてほしいと思う

「自分が逆の立場ではどうだろうか」と自問も繰り返しましたが、「時間をかければすべて上手くいくとは限らない」と感じています。

しかし、この 20 年間、LRT 構想は紆余曲折を繰り返し大声を張り上げる反対意見が通ってしまうかと心配する時期さえありました。

その間、清原工業団地に通う人たちは、朝早く 6 時頃に家を出たり天気や事故を気にしながら自転車で通勤したり、企業が膨大な費用を負担して自社通勤者への送迎専用バスを運行したりしましたが、市内在住者の多くは車を利用する為多くの時間を無駄に費やす事に

なります。なぜなら、延々と渋滞する道路を進みながら辿りついた入口は一つですから、そこからまた延々と待たねば会社にたどりつけないのです。物資を運搬する業者は定刻に届けたり集荷する為、さらに早い時間から待機する必要にかられて多くの時間と経費を費やししながら、その分を負担してもらわなければならない薄利となり運転する社員に負担を負わせる事になり、事故へと繋がる危険を含みながら業務をこなしています。なんか、間違っていないか？

一人に一台、一世帯に何台もの自動車があり、排気ガスと道路を擦ったアスファルトとタイヤの粉塵を撒き散らし、環境と健康を蝕みながら便利さだけが求められ、移動手段としての自動車の普及で郊外型の大型ショッピングモールができ、町中から商店の姿が少しずつ消えて行きました。昔からの顔なじみの人々の語らいが消えてしまいました。

街の中心街はシャッター通り、地元の有力商店は次々と倒産閉店、平出工業団地も歯が抜けたようになり、頼みの綱の清原工業団地も朝夕の通勤難から撤退する工場も出始めています。このままでは、宇都宮に輝く未来はありません。

それを解決する為の計画素案が今回の本題だと思います。

モノレール構想から始まり、いろいろな検討の中、浮上した LRT を軸とした公共交通の再編成ですが、すでに 30 年。

「時間をかければすべて上手くいくとは限らない」のです。

いつの間にか駅東にはマンションやオフィスビルが建ち並び沢山の住民が増えたはずですが、町の住民としての繋がりはみられません。大きなビルに入った大企業の人たちは、いつ来ていつ出て行ったのかも判らないまま駅東口は面白みのない、ある意味、大きな危険さへはらんだ街に姿を変えてしまいました。夜の駅東は、地元の人でも怖い所が沢山あります。行政も警察も目をつむっているのか？だんまりを決め込んでいるのか？宇都宮を腐らせかねない危険が芽生えているのも知らんぷりです。おかしくありませんか？なんとかしたいとおもいませんか？

宇都宮は県都である為に、地方から公共交通としてのバスが集まって来ます。地形的に現状では宇都宮駅の下を道路が貫通出来ません。田川の東に JR 宇都宮駅があり西側に県庁や市役所、繁華街が集まる構造の為宇都宮駅西口に南北から集まったバスは、西側の橋を渡り一本の道をすべての車両が市中心へと向かいます。ほとんどの車両には乗車する人の姿があまり見られません。なぜなら、ひっきりなしに同じ一本の道をバスが連なって走るのです。バスは、人が載っていなくても補助金があるので大丈夫です??おかしくありませんか?それに引き換え、宇都宮の東口にはバスが殆ど来ません。東口から中心部へと抜けられないので、利用者が極端に少ないからバス会社が運行したがりません。おかしくないですか??もちろん、バスは定時には停留所にやって来ません。まだ来ないのか?すでに行ってしまったのかも判りませんか?おかしくないですか?電車はバスの都合などお構いなしに定時に運行します。

おなじ公共交通なのになんでこんなに違うのですか?それは、レールの上を走るからです。決められた同じレールの上をいつでも同じように走る。この「同じ空間の共有」と「定時性」こそが軌道交通の特徴でとても大切な事です。大量輸送やコスト計算がしやすい点もあるでしょうが、いつ乗車しても同じ景色が眺められ定時に乗り降りできる安心感が他には代えがたい長所の一つで、決まった軌道の上を走る LRT だから、きっと愛着が生まれると確信しています。

そして大切な事は、より快適に使いやすくできるかどうかは乗車する私達市民の考え方や利用の仕方によります。

反対派の方も、どうやれば LRT がより使い良く愛される乗りものになるのかを一緒に考えませんか?

このあたらしい東西を繋ぐ公共交通 LRT を動脈として、路線バスや小型周回車両を活用して、中継地周辺からあたらしい未来に向けた街づくりを、もう一度少しずつ広げ始めようではありませんか。

それでも、まだ反対を叫び続ける人たちに問いかけたい。

LRT の選択が、「将来に渡り本当に良いのかどうか」真剣に考えるからこそ不安や心配も生じ、全市民満場一致で賛成と言う事はまず難しい問題です。

「公共投資は、資産を消費するのではなく、蓄積する」との考え方からすると、「次世代に負債を残す事になる」と反対される方が多くが唱える不安は、杞憂にすぎずまったく的を得ていない。

心配事や不安は、何を決めるときにもあるものです。自宅を建てる、進路を決める、あるいは生死を分ける事さえ決断せざるを得ない時があるかも知れません。

「覚悟を決めて決断する」事が大切な事は誰でも周知の事です。

物事が成就するには、全て可能となる時期があります。結婚も育児も、就職も生活においても一生のうちで出来る時期は限られています。まさに LRT を宇都宮に敷設できるかどうかは、この今に限られていると言っても過言ではないでしょう。今決断をしなければ禍根を末代に残し、子々孫々に渡って、私達の世代はその臆病さと先見の無さ故に嘲りの対象となってしまうかねません。

「公共投資は、資産を消費するのではなく、蓄積する」のです。

LRT に反対される方は、その非とする考えをはっきりと示してから賛成する側と討論するようになってほしい。反対の意見があつてはいけない等と言う気はさらさらしない。お互いに思う事を忌憚なく話し合い討議しあつてこそ良い案も浮かび練れていくものだと考えます。

しかし、何度も何度も同じ内容を繰り返すのでは何事も決められない。一党独裁の国ではないのだから、反対する人がいる以上前に進めないとしたら、反対する人の独壇場になり自由な社会から束縛された社会へと暗転していくのが目に見えるようで、こちらの方がよほど恐ろしい。

幸いにして現状では、選挙により住民の代表を選出し、提議された問題は議会を通して決断し実行してもらおう制度になっています。

佐藤栄一市長は、先の選挙では賛成推進の公約を掲げて、他のすべての候補者が反対を唱える中で当選されたのですから、LRT 推進を軸として宇都宮をより良く、魅力ある県都として発展させ、若者に夢ある未来を提供する「覚悟」をはっきりと示して戴きたい。

将来を見据え、これが一番、今の時点で最良だと思ふ事を果敢に実践するのが、選ばれた長として執るべき姿であるし、それを実現できるよう協力していくのが行政に携わる者すべての責務です。

そのような毅然とした態度を、業務に携わる者が示していけば、不満を持たれている方にもきちんと説明する事が可能となり、あまり興味のない多くの人々も付いて来てくれるのだと確信します。

立派な事案文書も公開されました。きれいにまとまっていますが、判らない点も多く残っている様に思います。

大切な、他の交通機関との活用連携とか、まだまだ具体的な内容が良くは見えてきません

また、国際的なテロ活動が今後活発化する恐れもありますので、都市計画においてもこれらの点を充分加味してご検討願いたいと思います。重要な駅東口の再開発案も示されないまま着工するについて、駅東近隣の諸外国人が絡む問題点の警察を含めた解決策もまったく考慮されていません。震災に対する備えも忘れることはできません。震災に強い都市として非常時には、中心的な役割も担えます。

情報をすべて公にすることは、テロ等の危険を招く事もありますので止むを得ませんが、今回の事案に関して言えば、市民に教えるのは、「まあ、こんなところでいいだろう」的な感じを受けかねない内容で終わってしまっていて非常に残念です。

これから 100 年 200 年を見据えた街づくりと公共交通と肝を据えて、市民・県民・全国民に広く、強く、明朗に真意をお伝えいただくよう切に望みます。

以上